



西都市立
妻北小学校
学校通信

妻北っ子だより

令和6年度 | 2月号

いろいろな面で成長した子どもたち。でも・・・

2学期もいよいよ終わりです。

令和6年の始まりのときは、1年生はまだ保育園・幼稚園児でした。その1年生が2学期から給食当番を始め、たどたどしいながらも自分たちで準備ができるようになりました。2年生は、下校するために教室からくつ箱までの廊下を歩いているときも「かけ算九九」を唱えて覚えようとがんばっていました。3年生は総合的な学習の時間で学習した「ピーマン」のことについて、給食時間のお昼の放送で、全校児童に楽しいクイズを出していました。4年生は「記紀の道ガイド」で大活躍！5年生は宿泊学習、6年生は修学旅行を通して、ひと回り成長した姿が見られるようになりました。

一方で、ほかの児童に対していやな言葉を言ったりしたりする、道路やそのほかの物にらくがきをする（おそらく妻北小の児童だろうと思います）などのこともありました。がんばっている児童がたくさんいる中で、このようなことがあると残念に思います。

心の教育について日常的に取り組んでいますが、学校だけでは限界があるためご家庭の協力も必要だと感じています。「あいさつができるようになる」ことも含め、心の教育について学校と家庭・地域と一緒にあって子どもたちを育てていきたいと考えています。来年もご協力どうぞよろしくお願いいたします。

3学期は1月6日から始まります。3学期始業日、子どもたちが元気な姿で登校してきてくれることを願っています。それではよいお年をお過ごしください。



4年生「記紀の道ガイド」発表



放送委員会児童による企画
「昼休みのアナウンス体験」
応募して抽選で体験できた児童
からは好評でした。

自己肯定感を高めるために

「自己肯定感」とは、ありのままの自分を肯定する（認める）感覚のことです。「自分はダメな人間だ」「どうせ自分にはできないんだ」など、自分を否定的に考える人は自己肯定感が低いと言われています。

次に挙げている声かけの例は、自己肯定感を下げるものだと考えられています。大人でも仕事で上司や同僚、取引先から責められると「ああ、自分はダメだな～」と思いがちです。子どもたちも声かけ一つで気持ちは変わります。本校職員も保護者の皆様も共に考えていただき、学校でも家庭でも子どもたちの自己肯定感を高めていけるように取り組んでいきましょう。

【自己肯定感を下げる声かけ（例）】

- 1 おどしの言葉
「もうごはんを作ってあげないからね！」「もう置いていくよ」「校長先生に叱ってもらうからね」
 - 2 責める言葉
「何度言ったら分かるの？」「だから言ったでしょ！」「ちゃんと考えちゃってね？」
 - 3 罰を与えるような言葉
「おやつ抜きだからね！」「もう遊びに連れて行かんからね」
- ※ 子どもに対して、つい言ってしまいがちなことばですよね。